

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆10～12月期の実質GDP6.50%増、民間予測平均

・日本経済研究センターが13日発表した民間エコノミスト36人の経済見通し「ESPフォーキャスト調査」によると、2021年10～12月期のGDPの予測平均は前期比年率6.50%増となった。12月の前回調査(6.39%増)から上振れした。調査期間は21年12月24日～22年1月7日。緊急事態宣言の解除により人出が増え、個人消費は前期比2.27%増となった。設備投資も1.79%増だった。

◆2021年の企業倒産、57年ぶり低水準 22%減の6030件

・東京商工リサーチが13日発表した2021年の企業倒産件数は、前の年と比べて22%少ない6030件だった。2年連続で前の年を下回り、1964年の4212件に次ぐ57年ぶりの低水準にとどまった。新型コロナウイルス禍が長期化するなか、国や金融機関の資金供給が経営不振の企業を下支えする構図が鮮明になっている。

◆財政収支黒字化、26年度に1年前倒し 政府見通し

・政府は国と地方の基礎的財政収支(プライマリーバランス、PB)の黒字化の時期を2027年度から26年度へ前倒しする。21年度の税収が過去最高となり、22年度も増えるとみるため。黒字化の時期は前回21年7月時点の試算よりも1年早まる。政府は毎年1月と7月に試算を見直しており、14日の経済財政諮問会議で新たな中長期の財政試算を示す。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆工作機械受注、12月は40.5%増 14カ月連続プラス

・日本工作機械工業会(日工会)が13日発表した2021年12月の工作機械受注額(速報値)は前年同月比40.5%増の1391億5200万円だった。14カ月連続で前年実績を上回った。国内に加え、米国や中国で自動車向けの受注が増加した。21年の年間受注総額は過去4番目だった。外需は30.6%増の878億1300万円だった。

◆クボタ、水道用鉄管の出荷停止 神東塗料の不正疑い受け

・クボタは13日までに、水道管に使う全ての鋳鉄管の出荷を取りやめたと発表。神東塗料が水道管用の合成樹脂塗料の認証を不正に取得していた疑いがあることを受けた措置。クボタは水道用鋳鉄管で6割の国内シェアを持つ。鋳鉄管はクボタの兵庫県や千葉県の工場で製造しており、ほぼ全てで神東塗料の製品を使っている。

◆壁床材過去最大値上げ サンゲツ、4月受注から18～24%

・壁紙国内最大手のサンゲツは住宅やオフィス向けの壁材や床材を全面値上げする。4月1日受注分から、値上げ幅は18～24%と過去最大になる。サンゲツは2021年9月以降の受注分から13～18%の値上げを実施したものの、塩化ビニール樹脂などの原材料価格や物流費の高騰が続いており、短期間で再値上げを決めた。

《 注目商品 》

■パナソニックエコシステムズ、「次亜塩素酸 空間除菌脱臭機 天井埋込形ジアイーノ」

・次亜塩素酸技術による高い除菌・脱臭力に、遠心破碎技術による加湿機能を加えた「天井埋込形ジアイーノ」を4月1日より発売。天井に設置するビルトインタイプで、場所を取らず、フロアがすっきり専用ダクトから清潔な空気を室内へ供給するため、複数の部屋で同時に運転することができる。



■アイリスオーヤマ、最大70畳に対応する「大型空気清浄機」

・1台で最大70畳の空間に対応する「大型空気清浄機」3機種を1月14日より発売。0.3μmの粒子を99.97%以上除去するHEPAフィルター、脱臭フィルターを搭載した本体両面にある双方向フィルターから吸気を行うことで、最大70畳という広範囲な空気清浄ができるため、多様な場所で使用できる。



■阿部興業、国産材のビンタ縦格子建具

・国産のスギ・ヒノキを使った建具「AK鬘太(びんた)格子」を発売。四方の框まわりに縦棧を伸ばしたデザインのビンタ格子を国産材で製作。高さ3000mmまで製作可能。独自の補強技術により、ガラス戸や開き戸にも対応できるとする。税別75万円(H3000×W900×T50mm、スギの場合)。

